

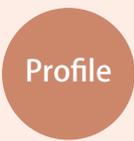
小郡市ふるさと文化大使

帚木蓬生さんの新刊が3月に発売されました！



今回の作品は、地下鉄サリン事件を題材に書かれた「沙林(さりん)偽りの王国」(2020年3月/新潮社)です。和歌山毒物カレー事件をモデルにした前作「悲素(ひそ)」(2015年/新潮社)の主人公が今回も登場し、オウム真理教による無差別テロはなぜ起こったのか、毒物学を専門とする医師の視点から追います。

令和のいま、平成の日本で起こった2つの毒物事件を扱うことで、マスコミや宗教問題、日本の医療体制について、読者に改めて問い直す内容となっています。2冊続けて読むとより理解が深まるのではないのでしょうか。市立図書館カウンター横、帚木蓬生さんの展示コーナーにて貸出を行っています(貸出中の場合は予約してください。電話でも予約できます)。



帚木 蓬生(ははきぎ ほうせい)

作家、精神科医。1947年、小郡市生まれ。東大仏文科卒業後、TBSに勤務。退職後、九州大学医学部で学び、精神科医に。吉川英治文学賞など受賞作多数。令和元年5月に小郡市ふるさと文化大使に就任。



養老先生、病院へ行く

養老 孟司/著 中川 恵一/著
 エクスナレッジ

「バカの壁」でおなじみの医学者、養老先生は病院嫌いで、健康診断はもちろん、自分から病院に行くことはほとんどありません。そんな養老先生がコロナ禍で心筋梗塞を起こし東大病院へ入院をします。養老先生の医療への関わり方は変わったのでしょうか。先生を担当した中川医師、マンガ家ヤマザキマリさんとの3人での対談内容も興味深い一冊です。

鉄印帳でめぐる 全国の魅力的な鉄道40

学研プラス



「鉄印」とは、第三セクターの地方鉄道40社が発行する乗車記念印のことです。この本では、40社の鉄印、会社情報、沿線マップとともに、綺麗な景色をバック

に走る鉄道の写真も載っており、見るだけで地方を旅したような気分になります。

野鳥手帳「あの鳥なに？」が わかります！

叶内 拓哉/文 写真
 水谷 高英/イラスト 文一総合出版



春を過ぎると、さまざまな鳥の鳴き声を聞いたり、その姿を見かけたりすることが多くなります。鳥を見た季節と、場所から鳥の名前を調べることができるこ

の本を持ってお散歩してみませんか。よく見るけど、名前は知らない「あの鳥なに？」の疑問をこの本が解決してくれます。

考える、書く、伝える 生きぬくための 科学的思考法

仲野 徹/著 講談社



大阪大学の名物教授が、大学1年生に向けて行った「学問への扉」という少人数ゼミでの実践記録を本にしたものです。これからのAI社会で生きていくためには、

知識を蓄えるだけの受動的学びから、主体的に創造する力が必要となります。そのための「学び方を身につける」方法を、この本で学んでみませんか。